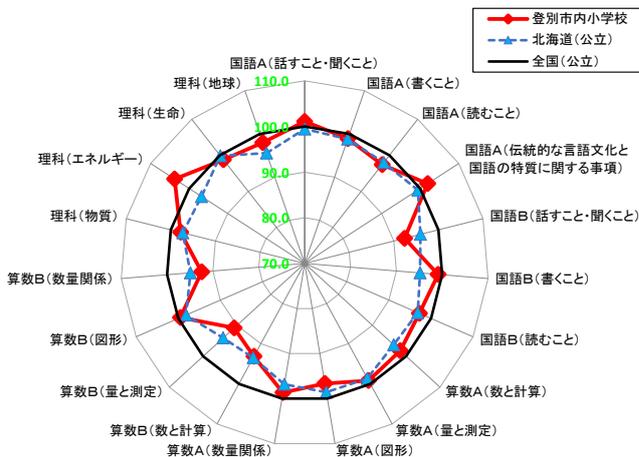


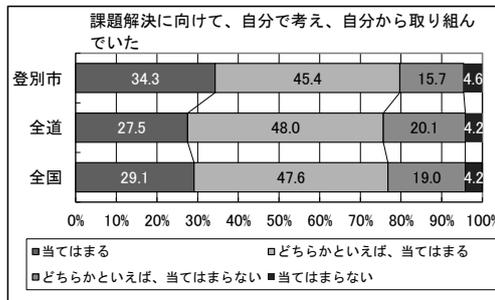
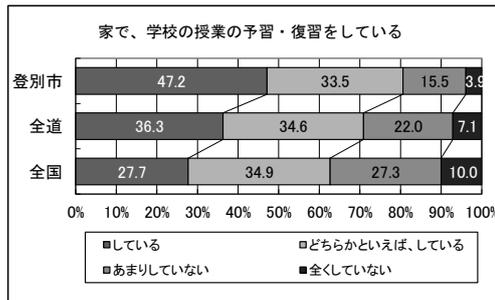
登別市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、児童数:389人)

【教科全体の状況】

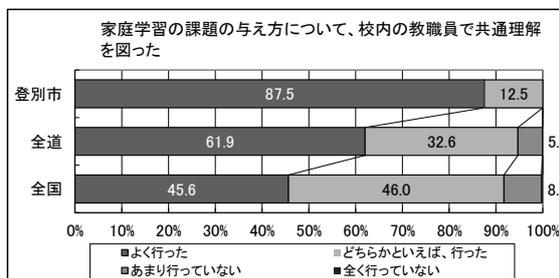
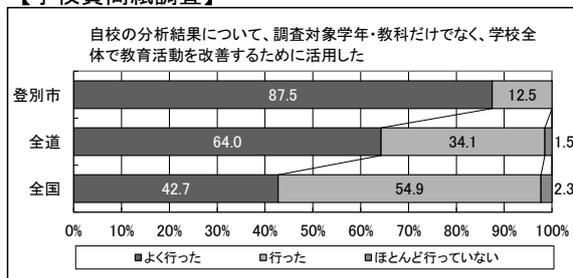
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aにおいて、全国を上回っている。 ○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 算数Bでは、「図形」が全国に最も近くなっている。 ○ 理科では、「エネルギー」で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、児童は、主体的に予習復習をするようになり、家庭学習の習慣が定着したと考えられる。 ○ 学校が、全国学力・学習状況調査等の分析結果を活用することにより、授業改善が図られ、児童は、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むようになったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育委員会は各学校に対し、登別市教育実践研究奨励校の指定や、登別市教育研究会の活動を奨励するなど、各校の校内研修による実践を基盤とした全市的な取組を推進したことにより、全国平均との差が縮まってきたと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

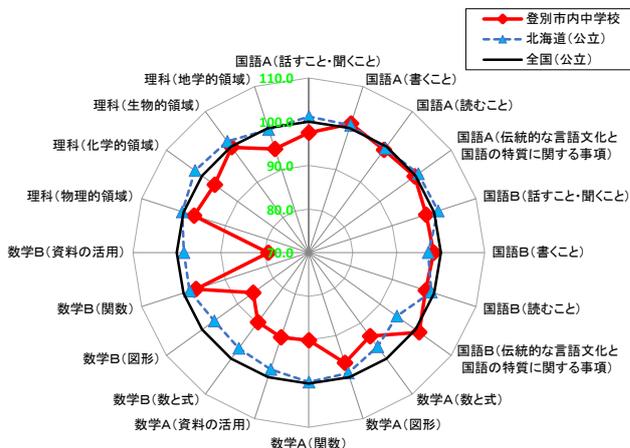
【登別市の学力向上策】

- ◎ 市独自に配置した学習指導員による登別版チャレンジドリルの作成や各学校の学力対策の支援
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの充実に向けた教材の作成や配付、地域住民による学習支援
- ◎ 学校図書館司書の配置や市立図書館と学校図書担当者の相互連携による読書環境の充実
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業を活用した放課後学習会の実施
- ◎ 全校の代表者参加による教育課程課題検討委員会の開催、市教委からの授業改善に係る方向性の提示や各学校の全校体制による学力向上策の交流・協議による成果の還元
- ◎ 登別市教育実践研究奨励校の指定や、登別市教育研究会の活動の奨励などによる全市的な学力向上の取組の推進

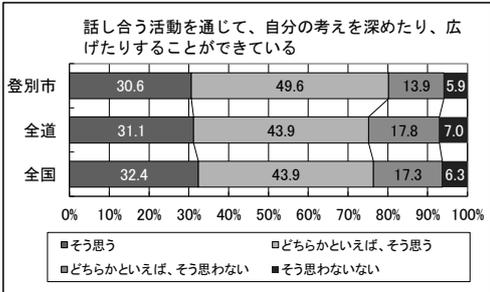
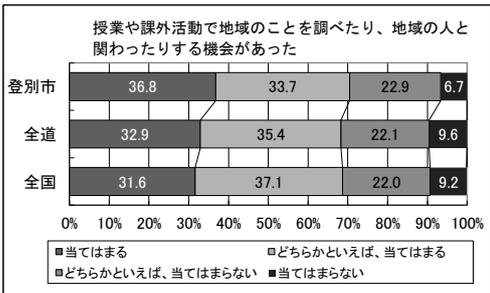
登別市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:5校、生徒数:390人)

【教科全体の状況】

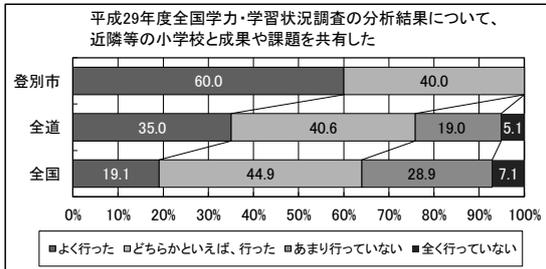
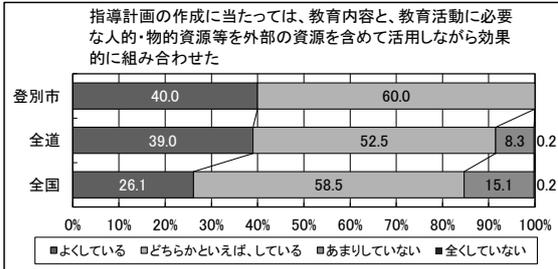
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aにおいて、全国とほぼ同様である。 ○ 国語Aでは、「書くこと」で全国及び全道を上回り、Bでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。 ○ 数学Bでは、「関数」で全国に最も近くなっている。 ○ 理科では、「生物学的領域」で全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせたことにより、生徒は、地域の人と関わりながら学習するようになり、探究的な学びが図られるようになったと考えられる。 ○ 学校が、全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有し、授業改善を図ってきたことにより、生徒は、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになり、特に国語で成果が見られるようになったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合が、全国とほぼ同様になっている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせた」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果分析について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

【登別市の学力向上策】

- ◎ 市独自に配置した学習指導員による登別版チャレンジドリルの作成や各学校の学力対策の支援
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの充実に向けた教材の作成や配付、地域住民による学習支援
- ◎ 学校図書館司書の配置や市立図書館と学校図書担当者の相互連携による読書環境の充実
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業を活用した放課後学習会の実施
- ◎ 全校の代表者参加による教育課程課題検討委員会の開催、市教委からの授業改善に係る方向性の提示や各学校の全校体制による学力向上策の交流・協議による成果の還元
- ◎ 登別市教育実践研究奨励校の指定や、登別市教育研究会の活動の奨励などによる全市的な学力向上の取組の推進